

第3章 指宿市の歴史文化の特徴

第1節 指宿市の歴史文化の特徴

本市の最大の特徴は、火山が集中した「火山銀座」と称される自然地形にある。先人はこの火山銀座との関わりによって、原始・古代から今日まで続く指宿の歴史文化を生み出してきた。

本市の歴史文化の効果的な保存と活用の取り組みを実現する上では、個々の歴史文化資源の繋がりを整理し、本市の歴史文化の特徴に基づき行うことが重要である。そのために、本市の歴史文化の特徴を、図103のように7つに整理した。

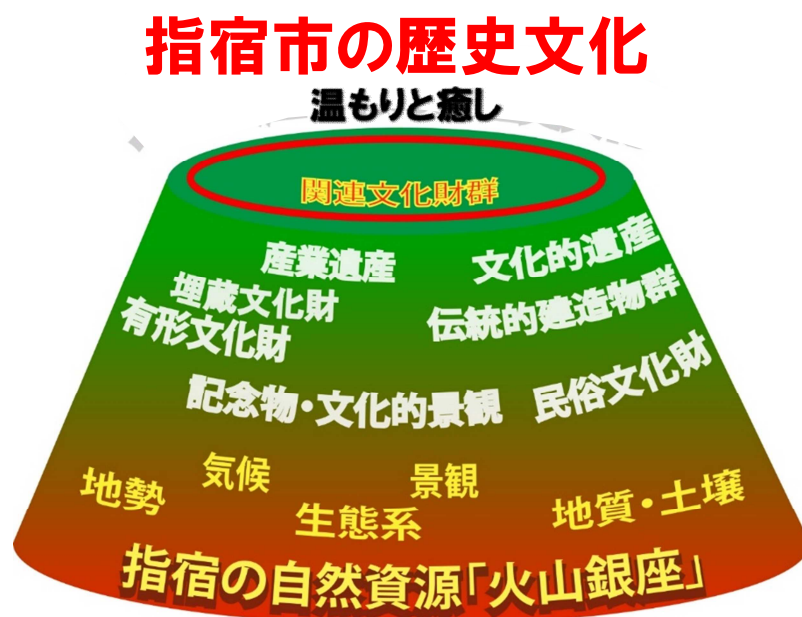


図102 指宿市の歴史文化の構造的特徴

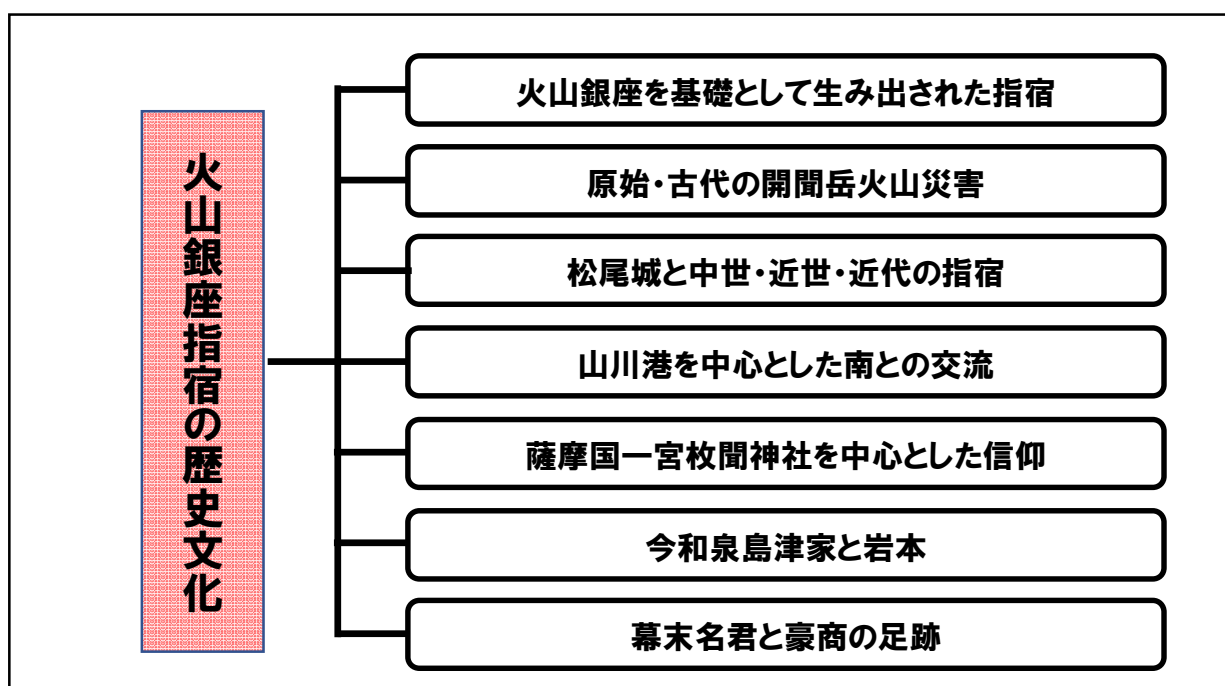


図103 指宿市の歴史文化の特徴

1 火山銀座を基礎として生み出された指宿

本市は、火山銀座と称されるほど、火山地形にあふれたまちである。市域の大部分が 11 万年前に形成された「阿多カルデラ」の内側に入っている。そして、その後に噴火した多くの火山によって現在の地形が形作られた。

火山銀座がもたらしたものとしては、豊かな温泉資源、火山灰によって形成された肥沃な土地、火山が創り出した様々な石材、金鉱山がある。また、中世・近世において鹿児島を代表する港であり、近年は焼津・枕崎に続くカツオ・マグロ水揚げ量を誇る山川港、そして、古代から航海目標物であった開聞岳がある。

本市の歴史文化は、火山銀座を基礎として生み出されたのである。

2 原始・古代の開聞岳火山災害

開聞岳は 4,000 年前に噴火を始めて以来、噴火を繰り返し、指宿市域に火山災害をもたらした。

特に、開聞岳の火山灰を挟んで、上から弥生土器、下から縄文土器が出土することが確認され、日本ではじめて縄文土器が弥生土器より古いことが証明されたきっかけになった噴火や、古墳などが火山灰で埋没した古墳時代の火山災害、そして、平安時代の貞観^{じょうがん}16 年（874）の火山災害がある。この火山災害の影響は甚大で、指宿地域南部や山川・開聞地域の歴史文化を数百年にわたり断絶させたことが、発掘調査によって明らかになった。このように開聞岳の火山災害は、本市の歴史文化にとって重要な役割を果たしたのである。

3 松尾城と中世・近世・近代の指宿

宮ヶ浜集落・外城市集落は、背後の山間部に日本の集落の源流とされる水迫遺跡があり、また、古代末から近世の指宿において、政治の中心地となった場所である。

中世後半から戦国時代には、松尾城が統治者の居城^{きょじょう}となり、この城をめぐる攻防戦が繰り返された。

江戸時代に松尾城が廃城になると、近隣に指宿地頭^{じょうとう}仮屋が置かれ、引き続き指宿の政治の中心となった。同時に、幕末の港湾整備や道路整備に伴い、この地域は経済の中心地としても発展した。現在でも国道 226 号沿いには、明治時代から昭和初期にかけて建設された商家群が遺されている。

4 山川港を中心とした南との交流

山川港を中心とした地域には、南の島々との交流を示す歴史文化資源が多数遺されている。成川遺跡で発見された人骨は、南西諸島と共通した特徴があり、その地域と同系統の人々であった。

南との交流は、中世・近世には山川港を拠点として海外との交易に発展した。特に、江戸時代の鹿児島藩は、海外に開いた「四つの口」の一つである琉球口^{りゅうきゅうぐち}を経由した琉球貿易を行ったが、その玄関口こそ山川港であり、藩の財政を支える重要な役割を担った。琉球との深い関わりは、指宿に琉球芸能などの文化をもたらすとともに、サツマイモも伝来した。このように、山川港を中心とした南との交流が、本市の歴史文化の特徴である。

5 薩摩国一宮枚聞神社を中心とした信仰

本市のシンボル開聞岳は、古代から海神「開聞神」として崇拝された。江戸時代に編纂された『三国名勝図会』には、開聞地域が太古において龍宮界であったと記されている。枚聞神社は開聞岳を祀る社として成立し、薩摩国一宮として、薩摩半島の宗教的中心の役割を果たした。その後も、薩摩半島の宗教的中心地として発展し、江戸時代には鹿児島藩主によって庇護^{ひご}された。また、江戸時代の絵図『薩藩勝景百図^{さつぱんしょうけいひゃくず}』は、神社周辺に数多くの寺社が集中していたことを示しており、枚聞神社一帯がいわば「宗教センター」の様相を呈していたことを示している。このことを示す歴史文化資源が今も多数遺されている。

6 今和泉島津家と岩本

今和泉島津家は、延^{えんきよう}享元年（1744）に創設され、鹿児島藩家臣団で最上位の家柄である一門家に属する。大字岩本は、篤姫が生まれた今和泉島津家の本領の中心地である。

そこには、今和泉島津家の本領本宅が置かれ、今和泉島津家の菩提寺や歴代当主が眠る墓所が置かれた。現在でも、本領本宅の石垣が遺る他、墓所は国指定史跡となっている。また、江戸時代の町割が遺るとともに、郷社^{ごうしゃ}であった豊玉媛神社、今和泉島津家に関係する屋敷跡などの、現在でも江戸時代の雰囲気の色濃く遺す地域である。大字岩本を中心として分布する歴史文化資源は、今和泉島津家の歴史文化を象徴している。

7 幕末名君と豪商の足跡

宮集落・二月田集落周辺は、幕末に活躍した鹿児島藩主である10代藩主島津斉興と11代藩主島津斉彬に深い関係を持つ歴史文化資源がまとまっている。藩主の温泉別荘跡や温泉を祀った社が置かれており、幕末に藩主が行った揖宿神社の社殿の造り替えは、当時鹿児島藩の領域に攻め寄せていた外国勢力を神仏^{かんぶつ}の力で退けたいという藩主の強い願いを示していた。また、東方一帯の干ばつ対策として藩主が灌漑^{かんがい}用に掘らせた井戸の記念碑も遺されている。

鹿児島藩の名君が活躍した背後には、指宿が生んだ海商の活躍があった。8代濱崎太平次は、鹿児島藩が主導した密貿易にも従事し、藩の財政に大きく貢献した。大字湊には8代濱崎太平次に関連する歴史文化資源が遺されている。このように幕末の名君と豪商の足跡を示す歴史文化資源が遺されているのが、この地域の特徴である。